

令和2年度 米子工業高等専門学校評議員会議事要旨

1. 日 時 令和3年3月8日(月) 13:30～15:30

2. 場 所 米子工業高等専門学校 大会議室

3. 出席者 【委員】

河 田 康 志(議長) (鳥取大学理事(研究担当、IT担当)・副学長)

大 津 宏 康(松江工業高等専門学校長)

福 本 哲 也(鳥取県教育委員会事務局高等学校課高等教育企画室長)

足 立 祥 一(鳥取県中学校長会副会長・米子市立湊山中学校長)

岡 村 整 諮(公益財団法人鳥取県産業振興機構理事長)

守 谷 光 広(米子工業高等専門学校振興協力会副会長)

角 正 樹(株式会社NTT データユニバーシティ取締役)

土 川 由 美(米子工業高等専門学校後援会会長)

大 谷 文 雄(米子工業高等専門学校同窓会会長)

【米子工業高等専門学校】

寺 西 恒 宣(校長)

新 田 陽 一(副校長・校長補佐(総務・企画))

蔵 岡 誉 司(校長補佐(学生))

山 本 英 樹(校長補佐(寮務))

藤 井 雄 三(校長補佐(専攻科))

山 口 顕 司(校長補佐(社会連携))

筏 津 隆 広(事務部長)

吉 田 雅 人(総務課長)

【説明者】

新 田 陽 一(副校長・校長補佐(総務・企画))

※令和元年度独自の自己点検・評価報告書の外部評価について

※令和2年度 年度計画及び自己点検・評価報告について

徳 光 政 弘(教務主事補)

※米子高専におけるDXの取り組みについて

4. 欠 席 者 安養寺 博(鳥取県子育て・人財局総合教育推進課長)

八 幡 泰 治(米子市総合政策部長)

稲 田 祐 二(副校長・校長補佐(教務))

5. 議 事

- ① 令和元年度独自の自己点検・評価報告書の外部評価について
- ② 米子高専におけるDXの取り組みについて
- ③ 令和2年度 年度計画及び自己点検・評価報告について
- ④ その他

6. 校長挨拶

開会にあたり校長から、昨年度の評議員会では学科改組について様々な意見をもらい、おかげさまで今年4月から総合工学科をスタートできることの御礼と、今年も時間の限りご意見いただきたい旨の依頼をもって挨拶とした。

7. 出席者自己紹介及び配布資料確認

8. 議長選出

総務課長（司会）から、評議員会の会長を委員の互選によって選出する依頼があり、委員から河田鳥取大学理事（研究担当、IT担当）・副学長が推薦され、異議なしで河田鳥取大学理事（研究担当、IT担当）・副学長を会長に選出した。

9. 議事

①令和元年度独自の自己点検・評価報告書の外部評価について

令和元年度独自の自己点検・評価報告書の外部評価について、資料に基づき、新田校長補佐（総務・企画）から概要の説明があった。

【質疑応答・意見交換】

各委員から以下の質問・意見があった。

- 鳥取大学としては、米子の地の利を生かした医学部との医工連携に非常に期待している。
- 多岐にわたって詳細に記載されていると思うが、もう少しアピールした書き方をした方が良いという印象も幾つか受けた。

学科再編に関する記述について、従前にあった課題を解消するため改組を行ったという意味決定の流れを明確にした方が、外部に対する説明の重要な要素にもなり、また、後に続く学校の立場としても有益なので、難しいかもしれないが配慮いただけると有難い。

→（寺西校長）ご助言に感謝する。実際には文科省に提出する資料として、県の経済成長戦略や本

校におけるこれまでの状況を踏まえて学科改組を行うことをまとめた資料があるので参考にしていただきたい。委員の方々にもしっかりお示しすべきだった。

- 中学生人口が減少する中、志願者を確保しているのは、学科改組の取組みが良く発信できているからであり、県立学校としても参考になると思っている。また、企業や大学との連携が充実しており良いと思う。

個別の点では、県立学校では国が進めるGIGAスクール構想の対応について苦慮しており、高専のビジョンが示されると良いと感じた。また、危機管理として新型コロナウイルス感染症の対応マニュアルやガイドラインについても考慮されてはどうか。

→ (寺西校長) 本校では、今回の新型コロナウイルス感染症により、リモート授業の取組みが進んだ。また、今度の1年生は、BYOD (Bring Your Own Device) で各自のPCを購入してもらう。今後、コロナだけではなく自然災害を含めた危機管理対応として、学生や教職員の安全に配慮しながら、学びを決して止めないということで、悪い面を直しながらリモートを活用していきたい。

- 資料を読み、高専の取組や良さが分かって、生徒への指導、あるいは中学校の先生方への指導にも役立つと感じた。

また、一番気になったのは将来構想であり、医学部との連携は良いと思った。一方、子どもの数が減少していく中、高校と協議しながら、子ども達がいろいろな進路を選べるような環境を作っていくことが必要なのではないか。

→ (寺西校長) 同感である。高専定員は国の定めるところであり変更は難しいので、本校としては、鳥取県にゆかり・関心のある学生を他県や海外から集めて、学校の強み、特色を生かして、地元の活性化につなげていきたいと思っており、卒業した学生を地元に残したいとも思っている。

- 高専の専攻科から鳥取大学医学系研究科に進学し排出される人材の役割は重要であり、こういう人材を活用した産業を興していくようなシナリオ、ストーリーが必要ではないかと認識している。

また、今後恐らく日本のものづくりがかなり激変すると思っており、日本のものづくり教育を変えていくチャンスではないか。難しいと書いてあるが、ぜひ高専独自の学位設定を文科省や県などと連携を図りながら提案していただきたい。

→ (寺西校長) 鳥取大学医学系研究科に進学した学生たちが鳥取県で活躍するための道筋については、しっかり対応していきたい。

高専独自の学位設定について、本校としては、高専機構全体の中の一員として、教育の質保証をしっかりと行うだけでなく、新しいものづくりという中における高度な教育のシステムというも

のを考えていきたいと思っているので、また御助言いただきたい。

- P D C A サイクルを回す手法を取っていると書かれているが、本当に P D C A が回っているのか、回されているのかがよく分からない項目が多くあったように記憶している。実際には行っているのだろうと思うが、報告書には十分に記載されていないと感じた。

→ (寺西校長) 学校としても経営者の意識を持って、不十分なところをそのまま流さず、実際どう生かしたのか、どうチェックされるのか等、しっかり検討していきたい。

- コミュニケーション能力と言語能力・プレゼンテーション能力・ディスカッション能力は異なる。コミュニケーション能力は相手と双方向に伝達しあう能力だが、高専卒業生は大卒の新入社員に比べて、少し劣っているように感じており、5年間同じクラス、同じ仲間、同じ先生といった同じ価値観の人間同士で過ごすのが原因ではないか。そのため、医工連携や産学協同等で、価値観、年代の違う人とのコミュニケーションを体験させてあげる必要があるのではないかと思う。

また、学科改組について、新入生がコースを選択するまでに、学校としてコースや就職についての情報提供や体験談を聞く機会を提供してあげないといけない。同窓会としても多くの先輩がいるので、何か協力ができればと思っている。

→ (寺西校長) 学科改組後、2年生と4年生でPBLの授業科目が開講される。その教育の場は学内だけでなく、地域やいろいろな産業界の方と連携し、地域あるいは世界全体をフィールドにして、自分たちで問題を発見し解決する。これもコミュニケーション能力向上の一助にならないかと狙っている。

また、コース選択までの1年間をかけて、学生に分野がそれぞれ単独ではなく連携しているということを、SDGsを1つのキーとして説明し、同窓会の協力を得ながら、OBの経験を生かしたキャリア、分野の選択について示していきたい。

- 学生の心の問題について、いろいろな人材配置がなされているが、本当に問題がある学生は、カウンセラーのところには行かない。そういったことに対して、どうアプローチをかけていくのか、もう一步踏み込んだ対策が書かれているとなおのこといいのではないか。

→ (寺西校長) いろいろな機関と連携して対応しているが、御指摘のとおり、本当に悩んでいる学生はなかなかカウンセリングを受けようとしなない。これを早く見つけるために、学生へのアンケートと同時に、出席管理を強化している。その中で、欠席・遅刻が多い等の異変があれば、保護者へ伝えるというようなことによって、保護者・学校・学生の連携を密にし、早期発見、早い声かけをしたいと思っている。

また、学校としてはいじめ・ハラスメントを絶対に許さないという姿勢を打ち出しているところである。

- できれば資料はもう少し事前にいただけると良かった。

同窓会としては、キャリア支援に対する支援について学校と話し合いながら進めている。卒業生ネットワーク、同窓会に対して、委員の方から意見をいただいております、同窓会の在り方そのものについても、学校と相談しながら進めていきたい。

→ (寺西校長) 全国の高専の中でも本校は同窓会との連携が強いと聞いている。引き続き連携を強化しながらこの資産を生かしていきたい。

②米子高専におけるDXの取り組みについて

米子高専におけるDXの取り組みについて、資料に基づき、徳光教務主事補から概要の説明があった。

【質疑応答・意見交換】

各委員から以下の質問・意見があった。

- オンライン授業では長時間ディスプレイに向かうことになるが、学生の健康やメンタルの問題については、どのように考えているか。

→ (寺西校長) オンライン授業を実際に行い、本校としても健康とメンタルの問題を痛感した。そのほか学生によって家庭環境が異なり、そのあたりの配慮も十分にすべきだった。何かいい手はないか？

→ 企業と学生のケースでは異なると思うが、対面とリモートで大きく違うのは雑談である。自宅で仕事をしていると、極端なときは一日中無言で仕事をしている。2年目に入ると、1年目に見つけた健康面の問題やオンライン授業の工夫というものを試行錯誤して改善していく必要がある。

- 学生が分からなかったところをもう一度見られる等、ITを使った授業には良い点もあるので、大学ではハイブリッドのような形での講義を今後も考えている。米子高専では、今回作りあげたリモート授業の環境やオンデマンド用の教材を、どうしていく予定か。

→ (寺西校長) 本校も対面授業とのハイブリッドを考えている。今年1年、教員も学生もコンテンツをためた。これをスキルアップして、自学自習に役立てていきたい。高専の特色である実験・

実習についてもリモートでできるような環境をつくり、先ほどの雑談ができる環境も加えていければ良いと思っている。一つ一つ進めていきたい。

→ 特に雑談が大事ということだが、それが一番顕著に出たのは1年生だった。人間関係ができる前に遠隔授業をしてしまったために、相当気を遣ったが、後期から対面授業を行うと、お互いが話しをすることで補完し合い、成績等かなり改善したというようなことを担任から聞いている。高専も当然ハイブリッドでやっていくべきだが、人間関係が築かれるまではできるだけ対面授業を行う等、人間的なファクターも入れて考えていくことが必要だと思っている。

③令和2年度 年度計画及び自己点検・評価報告について

令和2年度年度計画及び自己点検・評価報告について、新田校長補佐（総務・企画）から説明があった。

【質疑応答・意見交換】

各委員から以下の質問・意見があった。

○ 資料が、PDCAのうちPとDの部分について書かれていると思うので、これにCとAについて書かれるといいのではないか。

→（新田校長補佐）PDCAが見えるようなまとめ方を検討していきたい。

④その他

なし

10. 校長挨拶

閉会にあたり校長から、今後ますます尽力してまいりますので、引き続き御支援賜りたい旨の挨拶があり、閉会となった。